

講習会「食物アレルギーを学ぶ会～豊かな食生活の実現を目指して～」

11月6日（月）に中部学院大学短期大学部幼児教育学科教授の菊池啓子先生と食物アレルギー患者のご家族である宇佐美千恵子氏を講師としてお招きし、食物アレルギーに関する講習会を行いました（家庭クラブ委員・希望者：27名参加）。食物アレルギー疾患のメカニ

ズム、症状、原因、患者数などのアレルギーに関する基礎知識やデ



ータから読み取れる知見、また、食物アレルギーのお子様をもつご家族の食生活や困りごと、周囲の人たちに理解して欲しいことなど、生の声を直接お聞きする貴重な機会となりました。食物アレルギーで死に至るケースもあること、周囲の人たちの理解と関わり方次第で子どもたちの育ちに大きな影響を与えることが分かりました。

食物アレルギーの有無にかかわらず、「同じ料理を食べ、同じ時間と空間を共有すること」は、**食のダイバーシティ（多様性）を認め合うこと**につながります。自分とは違う価値観や立場の人の存在を知り、お互いの理解を深めていくことが私たちに求められています。

参加者の感想①

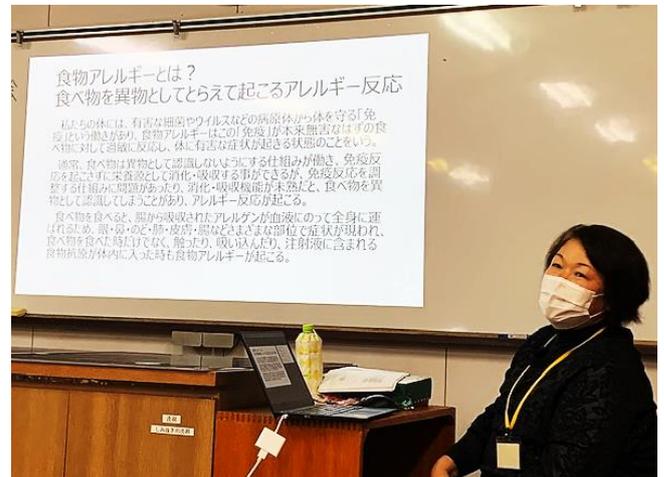
- ・食物アレルギーは、**誤食を避ける**ことが一番大切。しかし、少しずつ体に慣らしていくことで**食べられるようになる**ことも分かりました。アレルギーを持っている人に対して、自分の「**ものさし**」で判断してはいけないと改めて思いました。また、このことは、アレルギー以外にも**様々な事柄を考える上で大切な考え方**だと思います。
- ・保育園に入園する際に園長先生がエピペン講習を受けてくださった話を聞いて感動した。「アレルギーについて知って欲しい」と聞き、私も**周りの人たちに今日の話**を伝えていきたい。いつか適切な手助けができるようエピペン講習会を受けてみたいと思った。
- ・これからも、**多様な考え方に柔軟に対応**できるように、多くの人からの話を聞き受け入れられる人になりたい。
- ・正しい知識を身に付けることは「**手助けとなる対応ができる**」ことになり、その手助けで「**救われる人がいる**」はずです。また、理解があることで、多くの方にとって「**豊かな食生活**」を送ることができると思います。今日の話聞いて「**かわいそう**」ではなく、「**私ができることは何か**」を考えられるようになりました。



講習会「食物アレルギーを学ぶ会～豊かな食生活の実現を目指して～」



「アレルギーについて理解して欲しい」宇佐美千恵子氏



「お互いを理解し皆で考えていきましょう」菊池啓子氏

参加者の感想②

- ・実際に家族の方から話を聞くことがないので、良い経験だった。私はアレルギーがある人は外食の時、どうしているのか、みんなと同じように楽しめるのかと普段から気になっていた。だから、食べられるものを自分で調理したり、代わりになる食材の情報を収集していると聞いて感動した。アレルギー負荷試験の話聞いて、命にかかわることだからその重みも感じた。今、自分にはアレルギーはないけれど、サポートができるようになりたい。
- ・周りにもアレルギーの人がいたら、しっかり話を聞きどんな配慮が必要か理解した上で、一緒に楽しめるようになりたい。友人には、そのせいで我慢して欲しくない。
- ・自分には関係のないことだと思わないようにしたい。ただ、そこに変にこだわって関わっていくのも違うと思う。自分なりに考えて、フラットに付き合っていきたい。
- ・自分で勝手な思い込みをしないようにしたい。「食べること」を大切に生きていきたい。
- ・子どもがアレルギーをもつと親の食生活も制限されることに驚いた。アレルギーを持つと食べ物の中に何が含まれているのか常に意識しなければならないことが大変だと思った。当事者だけでなく、周りの人も一緒に気を付けるべきことだと分かった。
- ・大人になるにつれて、アレルギーがなくなることもあると初めて知りました。また、アレルギーにもいろいろな種類があり、タイプも様々ということが分かりました。お米アレルギーの方に対して「米が食べられないからかわいそう」、「米を食べるのが普通」というような自分のものさしで捉えないようにしたいです。

